

箸初見

箸製作

奢には、金をのべ沈をけづりて用ゐ、今は民間に象牙骨咄犀ウニ、コルを用ゐるに至れり、驕奢の甚しき惧るべし。○中略信濃には、箸をはなぞうといふ。

〔古事記〕上故所避追而、降出雲國之肥河上在鳥髮地、此時箸ハシ從其河流下、於是須佐之男命、以爲人有其河上而尋覓上往者、老夫與老女二人在而童女置中而泣。○下略

〔延喜式〕内匠賀茂初齋院并野宮裝束

銀箸三具、各長八寸四分料銀小十二兩和炭三斗、長功三人、中功四人半、短功六人、

白銅箸四具、料白銅大八兩、細布三尺、信濃布五尺、油二合、炭一斛、長功十二人、中功十四人、短功十六人。

〔厨事類記〕銀器

箸二雙 記云、長八寸四分、或記長七寸五分、一説八寸七分、

朝餉銀器

箸 記云、長八寸四分、或記同前、○長七寸五分

〔大草殿より相傳之聞書〕折をしき、ぎきろうのはしの長さ七寸たるべし、けづりやうは、かうばしのごとくけづり、金銀にみがき用ゐる也。○下略

〔伊勢六郎左衛門尉貞順記〕主人ならせられ候事

箸はいねのほのはらみたるを學びてけづり候なり、てんしん箸は一尺二寸、御食の時は一尺一寸計也、

〔和漢三才圖會〕三十一箸○中略

按、筋用桑槐、作者良杉檜次之、榘サハラ有臭氣不堪、用竹箸多漆髹之、凡異國人均用、與箸本朝人不用、唯用箸。